

子育て支援の理論的枠組みに関する研究
—ペスタロッチーを参考に—
～『幼児教育の書簡』の分析と保育現場の状況～

宮崎学園短期大学

椋木 香子

I 問題関心～前回の発表より～

1. 子育て支援の社会哲学の必要性

今の社会状況・構造を分析し、その上で今求められる幼児教育について考え、実践することが必要

←その方法論的視点として、ペスタロッチー・ペスタロッチー研究

2. 方法

①社会構造分析と教育実践に基づくペスタロッチー理論を分かりやすく示し、広めていくこと

○時代の転換期にあって、どのような人間を教育するのか、どのように教育するのか、といった根源的視点の提示

○社会改革（改善）の観点と教育方法との関連についての明示

□『幼児教育の書簡』の再検討

母子関係論や理想の母親像として捉えるのではなく、母親教育の書として捉える
ペスタロッチー理論の主要概念と幼児教育方法との関連の検討

②我が国の現代社会に対するペスタロッチー理論（社会構造分析と教育実践による改善の姿勢・態度・方法）の思い切った援用による子育て支援の社会哲学の構築

○ワークショップのような形で子どもたちや幼児教育の現場の声を拾いあげていく、あるいは研究者・関係専門家も交え、議論の場を作っていく

3. 本日の発表

①『幼児教育の書簡』の分析（2010年 環太平洋乳幼児教育学会 発表内容より要約を報告）

②保育現場の声

～保育者養成の立場・保育現場との連携を取る立場からの報告

II ペスタロッチー『幼児教育の書簡』の分析（省略）

Ⅲ 保育現場の声～保育者養成の立場・保育現場との連携を取る立場から

1. 保育現場の先生方との雑談から

①子ども達の変化

- ・話を集中して聞けない
- ・言われたことへの対応ができない

②親の変化

- ・親が自己中心的な生活を変えない
- ・過剰反応する（攻撃的な対応、被害者的に受け取る、など）

●困っていること：保護者とのコミュニケーション

⇒援助、支援が難しくなる

* 「ゆとり世代」という捉え方も

□背景には社会状況の変化（仮説）

間接体験の増大と直接体験の減少、核家族化と都市化、人間関係の希薄化
メディアの影響（特に、子ども向けアニメやお笑い番組の影響）
→コミュニケーション力、道徳性、社会性の育成に大きく影響

2. 保護者へのアンケート結果から

（平成 22 年第 58 回宮崎県保育事業研究大会発表資料より）

宮崎県三股町内認可保育園 11 ヶ園の保護者 608 名対象、530 名回収（回収率 87.2%）

平成 22 年 9 月～10 月に調査

【調査内容の一部】

- ・お子さんのことや子育てについて気になることあったとき、保育士に気軽に相談できますか。
はい：77% どちらとも言えない：17% いいえ：3%
- ・子育てに関して不安やストレスを感じることがありますか。
よくある：10% ときどきある：66% ない：21%
- ・子育てに関して不安やストレスになっていることは何ですか。（上位 3 つ、複数選択式）
子どもが言うことを聞いてくれない：51%
自分の自由な時間が取れない：40%
子育てに自信がない：24%

□考察～「子育てに関して不安やストレスになっていること」の結果を中心に～

「子どもが言うことを聞いてくれない」というのは子どもの年齢により事情が異なってくるが、これを不安やストレスと感じるということは、子どもの発達に関する知識の不足や母親自身の生活の余裕のなさをうかがわせる。「子育てに自信がない」ということとも関連があるかもしれない。この 2 つは子育てに関する知識の少なさや、子育てを支える環境の問題があると考えられる。

一方、「自分の自由な時間が取れない」という意見は、現代社会特有の意識だと考えられる。親が親としての「自己否定(克服)」ができていないともとらえることができるのではないだろうか。

3. 保育者側の問題

①保育者養成の問題

学生の学力・コミュニケーション能力・社会性等の低下

2年間での養成の限界（保護者支援等、新しい内容の増加）

保育の質向上が求められ、保育者への社会的要求が高まってきたため、保育者養成に求められることも増加

一方で、それを教える専門家の養成が遅れているように感じる

②保育現場の様々な状況・事情

経営が財政的に厳しい園では、非正規雇用、臨時雇用、パート等で保育者を雇用

→継続的な保育の力の向上につながりにくい

園長や主任の考え方により、保育の内容・質とも大きく左右される

現場の保育の質の向上に関する課題

研修体制の問題、連携の問題、そもそも「何が質が高いのか」という議論が困難 など

4. 子育て支援へのニーズ

①保護者の子育て支援のニーズは年々高まっているが心配な傾向も

・育児番組・育児雑誌のファッション化

・育児の産業化（子ども手当の問題等）

・支援が本当に必要な人には支援が届かないことも

←現在の子育て支援は支援を求めてくる人に対して実施されている部分も多い

（例えば、妊婦検診、若年層の妊娠、一人親世帯などへの支援が不足している場合も）

②行政の認識不足

・新システム案の問題など

IV まとめ

母親教育の必要性という視点は、今の母親に問題があるということではなく、時代を超えた課題であり、人間教育にとって必要なことだと考えられる。現代に特有な社会的な要因も踏まえながら、具体的な支援方を検討する必要がある。一方で、社会構造的な問題も視野に入れて、関係諸機関との連携を踏まえた提言を行っていく必要もあると考えられる。